

# 災害ピクトグラムに注目

## 文字とマークで避難誘導

災害時の避難誘導に役立つようと、岡山市消防局などが考案した「災害対応ピクトグラム」を導入する動きが県内外で広がっている。文字とマークで行動を促す案内板で、混乱が生じがちな大規模災害の現場で安全な誘導ができるだけでなく、耳の不自由な人との意思疎通にも有用という。消防局をはじめ大型商業施設や学校など、約80カ所で採用されている。(森田奈々子)



避難訓練でピクトグラムを掲げる女性従業員＝2019年12月、イオンモール岡山

「歩いてこちらへ Walk here」人を誘導するようなマークとともに日本語と英語で書かれた案内板。県内最大規模の商業施設・イオンモ

服を袋へ  
Put clothes in bag.



タグをつける  
Put on tag.



ポンチョを着る  
Wear a poncho.



「歩いてこちらへ」以外の災害対応ピクトグラム

## 岡山市消防局と川崎医福大開発 県内外80カ所で採用

岡山(岡山市北区下石井)では約300人が参加する避難訓練で年2回使っている。

同施設では2018年12月、電気室に煙が充満する騒ぎがあり、駆け付けた市消防局員が、この案内板で買い物客や従業員を速やかに避難させた。「マークで行動を伝えられるのは心強い」と担当者は導入理由を話す。

### 4種類

地震や火災では、被災者がパニック状態に陥りやすく、大声で避難を指示しても伝わりにくい。ピクトグラムの案内板は、そんな状況でも迅速な避難につなげられるよう、同市消防局が川崎医療福祉大(倉敷市松島)の医療福祉デザイン学科に協力を依頼し、17年3月に共同開発した。

きっかけは、同局中消防署の特別救助隊長渡辺敏規さん(37)の火災現場での実体験だ。耳の不自由な人を誘導しようとしたが伝わらず、かぶっていたヘルメットに書かれた「消防」の文字を指して救助したことから着想を得た。「マークを示すと相手も冷静になり、スムーズに誘導できる」と効果を説明する。

案内板はNBC(核、生物、化学)災害までも想定しており、有機物質に汚染された衣服の処分を促す「服を袋へ」、治療の優先順位を決める

トリアージュを行う際の「タグをつける」など4種類がある。同春秋、総務省消防庁の消防防災科学技術賞の優秀賞を受賞し、現在は岡山市の全消防車両に搭載する。

### お墨付き

災害対応のピクトグラムは全国的にも珍しいといい、消防庁のお墨付きを得て導入が一気に広がった。9日現在、県内では岡山市を除く全13消防局・本部のうち新見、倉敷市など9消防局・本部が取り入れ、県外では千葉、大分市をはじめとした61消防局・本部が活用。神戸市消防局は「マスクや防護服で会話しにくい状態でも意思疎通できるのが利点」と評価する。

「歩いてこちらへ」は商業施設や学校など約10カ所でも利用されている。避難訓練で使った県立岡山聾学校(岡山市中区土田)は「初めて見た生徒もマークに沿って行動できた」とする。市消防局は市内の保育園や幼稚園、小中学校にも案内板を配備してもらう計画で、公民館や老人ホームへの導入も目指す。

兵庫県立大の阪本真由美教授(防災教育)は「外国人にも伝わりやすく、誰にでも使える。広く普及、浸透させる必要がある」と指摘している。